



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

| | |
|------------|---|
| Title | 新しい学習指導要領と各教科が目指す深い学び（研究部より）(fulltext) |
| Author(s) | 鈴木,誠 |
| Citation | 教育と研究 / 東京学芸大学附属世田谷中学校(44): 4-5 |
| Issue Date | 2017-10 |
| URL | http://hdl.handle.net/2309/148769 |
| Publisher | 東京学芸大学附属世田谷中学校 |
| Rights | |

新しい学習指導要領と各教科が目指す深い学び

研究部長 鈴木 誠

1. 本校の研究主題と深い学び

本校の今年度からの研究主題が世田谷中学校で育てる「21世紀型能力」～各教科が目指す深い学びを通して～

となったことは、既に教育と研究43号でお知らせした通りです。前号を執筆しているときは、次期学習指導要領が告示前でした。そのため、中央教育審議会答申などから改訂の方向性を予想し、本校の今年度からの研究主題とのつながりなどについて記述しました。

平成29年3月31日に告示された学習指導要領は来年度から平成32年度までの移行期間を経て、平成33年度から中学校では全面実施の予定です。移行期間中には、いくつかの教科では新しい指導要領の内容について指導されることが求められています。また、新しい学習指導要領の内容を指導するように規定されていない教科についても、新しい学習指導要領に従って、新たな内容を加えて指導することは認められています。

次期の学習指導要領を表すキーワードにはいくつかありますが、そのうちのひとつが「主体的・対話的で深い学び」です。主体的や対話的はまだ

わかるのですが、深い学びとはどういったことか漠然としてわかりにくいのではないのでしょうか。本校の研究主題の副題「各教科が目指す深い学びを通して」は、各教科が目指す深い学びを具体化していくことを意図しています。

2. 次期学習指導要領が目指すもの

前号では次期学習指導要領が内容ベースではなく、何ができるようになるかを重視した、資質・能力ベースで整理されたものになることについて書きました。資質・能力についてはすべての教科について3つの柱で整理されています。3つの柱とは、生きて働く「知識・技能」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」です。この3つの柱に従って学習指導要領が整理されて、示されました。これらの資質・能力を各教科の指導を通して育てることにより、これからの社会をつくる生徒たちが、新たな価値を生み出しながら、よりよく生きていける力を付けることを目指しています。

3. 深い学びとは

次期学習指導要領では、既に述

べた「主体的・対話的で深い学び」の実現へ向けて授業改善をすることが求められています。「主体的な学び」は、主体的、能動的に学習に取り組むことができるような場をつくることの必要性を求めています。「対話的な学び」は、これからの社会の中では、協動的に問題に取り組む能力も大切であり、そのような場を学習の中でも適切に位置づけることの必要性について示しています。しかし、何でもグループにして話し合わせれば良いわけではないことについても学習指導要領解説では指摘しています。ここでの対話は、他者との対話は勿論ですが、先哲との対話や自分との対話も含む広い意味での対話です。「深い学び」については、学習内容そのものが深まるだけと捉えるのではなく、考えが深まっていく、見方が拡がっていくということも含めて捉えられています。「深い学び」を実現する際に鍵となるのは、各教科における「見方・考え方」を働かせることだとされています。「見方・考え方」は、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方です。この「見方・考え方」が各教科を学ぶ本質的な意義の中心となるもので、また、教科等の学習と社会をつなぐものであることから、生徒たちが自在に働かせることができるように育てることが大切だとされています。この「見方・考え方」が深まっ

ていくような学習が「深い学び」です。「見方・考え方」は資質・能力の3つの柱のどれを身につけるときにも働くものとされています。従って、授業を通して生きて働く知識を得た、技能を身につけたというようなことも含んでいます。

4. 本校の研究と「深い学び」

本校では、これまでも次期学習指導要領が示す「深い学び」につながるような学習を大切にできています。しかし、その方法、カリキュラムのあり方については改善の余地があります。その部分の検討について、各教科において今年度から取り組むこととなります。また、道徳が特別の教科として教育課程の中に位置づけられることも大きな変化の一つです。本校では、道徳を生活学習の中に位置づけこれまで行ってきました。今後は授業として位置づけることも必要であるため、本校としてのよりよい道徳のあり方についても検討しているところです。また、各教科の学習だけに終わらない学習や、各教科の学習をどのようにしてつなげていくかについても考えていきたいと思っています。言語能力、情報活用能力、問題発見能力、問題解決能力などの教科横断的に育てられるであろう力をどのように教科で連携し育てていくかについても考えることの必要性を感じているところです。よりよい教育につながるような取り組みを目指して今後の研究に取り組みたいと思っています。